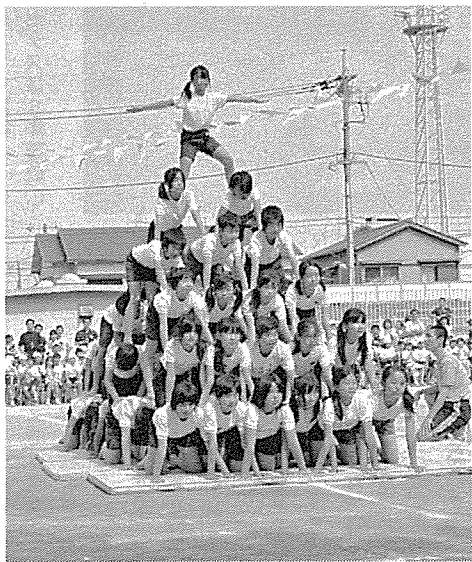


# 負傷者数は3年連続全国ワースト、神戸市長も「やめる勇気を」持ってください」と反対。

## それでも保護者や地域からは「やめないで」の声が……

### 徹底検証

土台が三角形あるいは四角形の「立体ピラミッド」。横一列の「平面ピラミッド」よりも重さが分散され、高さが出せる（写真は6段）



**伝説となった「10段ピラミッド」**  
 今回の騒動の発端は、兵庫県神戸市・久元喜造市長の9月9日のツイートだった。  
 〈前略〉秋の運動会、体育大会の組体操で、立て続けに3件の骨折事故が発生、うち一件は全治4週間の重傷とのこと。何に対応していたのか？ 何度でも言います。教育委員会、そして校長先生を

# 兵庫県の小中学校は

# なぜ危険な組体操をやめられなかったのか？

秋といえば運動会、運動会といえば組体操。しかし、近年はその危険性に厳しい目が向けられ、縮小や廃止に向けた動きも多い。そんななか、注目を集めているのが全国ワーストの負傷者数を3年連続で記録している「組体操王国」、兵庫県の実態だ。いったいどうなっているのか？

はじめ小中学校の先生方にはやめる勇気を持つて下さい

これ以前にも久元市長は、運動会（学校によって「体育大会」などの呼び名もあるが、以下、この記事では運動会に統一）における組体操をやめるべきだとたびたび発信していた。それでも多くの小中学校が秋の運動会に向けて組体操の練習を続けた結果、負傷事故が多発したことを受けてのツイートだったわけだ。



西宮市では毎年11月頃に、甲子園球場に市立の全中学校が集まり「連合体育大会」が開催される。中学3年生の組体操が目玉行事だという（写真は2010年の連合体育大会）



組体操の危険性に警鐘を鳴らす久元喜造神戸市長。8月2日には市教育委員会に「安全に実施できる見通しが立たない場合は実施を見合わせるよう要請します」と申し入れていた

参考）で兵庫県の組体操による負傷者数が全国ワーストだったことを複数の新聞が報じ、やはりネットなどで議論が盛り上がったのだ。

この負傷事故のデータは、大阪経済大学・西山豊名誉教授（数学）が日本スポーツ振興センターの災害共済給付件数に基づいて算出したものだ。西山氏はこう語る。

「私は2015年、たまたまテレビで組体操の『10段ピラミッド』を取り上げているのを見て、こんな危険なことをやっているのかと驚きました。それで組体操の危険性を発信するようになったんです」

は全国的に減少傾向にあるとはいえ、前述のとおり兵庫県が3年連続で最多。兵庫県の人口が全国7位とそれなりに多いことを差し引いても、日本一の「組体操王国」であることは間違いなさそうだ。

では、なぜ兵庫県でこれほど組体操が盛んなのか？ 兵庫県教育委員会によれば、「日本海側よりも、阪神間（神戸、西宮、尼崎、伊丹など）大阪から神戸市間の地域」など人口が密集した都市部のほうが組体操をやる学校が多い傾向があります。理由ははっきりわかっています。理由は「このことだが、西山氏は次のように解説する。」

「理由のひとつは2010年頃、伊丹市のある中学校に、組体操を熱心に教育する先生がいたことです。当時、この先生が主導した『10段ピラミッド』の成功をテレビがドラマチックに取り上げ、彼はヒーローのような扱いでした。学校もこれを誇り、運動会に3000人ももの観客が殺到したこともありました。

この先生自身はもう組体操の指導をやめていますが、当時の指導の様子をYouTubeなどに残っている。それを見本として、みんなが組体操をやるんです。私がこれを危険だと発信し始めた当初は、ツイッターなどで『そんなことを言われるのは迷惑だ』とずいぶん反撃に遭いました」

「カリスマ」の存在が、この地域に組体操の信奉者を増やしたというところらしい。

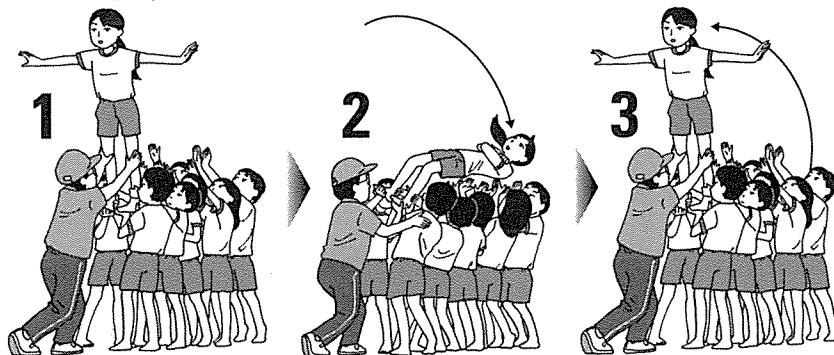
## 組体操による負傷事故の多い都道府県

日本スポーツ振興センターの災害共済給付件数から西山氏が算出。児童・生徒数に対する負傷人数の割合（負傷率）も兵庫県は高い

2017	負傷人数	うち骨折数	負傷率(%)	2016	負傷人数	うち骨折数	負傷率(%)	2015	負傷人数	うち骨折数	負傷率(%)
1 ▶ 兵庫県	566	169	0.128%	1 ▶ 兵庫県	601	173	0.135%	1 ▶ 兵庫県	857	265	0.189%
2 ▶ 大阪府	464	127	0.069%	2 ▶ 大阪府	534	140	0.078%	2 ▶ 大阪府	765	223	0.110%
3 ▶ 埼玉県	361	74	0.064%	3 ▶ 埼玉県	376	82	0.078%	3 ▶ 東京都	667	205	0.095%
4 ▶ 福岡県	304	65	0.073%	4 ▶ 東京都	356	97	0.051%	4 ▶ 埼玉県	555	135	0.114%
5 ▶ 東京都	294	83	0.033%	5 ▶ 福岡県	356	85	0.086%	5 ▶ 福岡県	496	144	0.119%
6 ▶ 愛知県	256	69	0.041%	6 ▶ 愛知県	269	79	0.043%	6 ▶ 千葉県	458	93	0.051%
7 ▶ 広島県	172	36	0.075%	7 ▶ 神奈川県	209	48	0.122%	7 ▶ 愛知県	427	123	0.058%
8 ▶ 長野県	160	26	0.095%	8 ▶ 千葉県	176	43	0.020%	8 ▶ 神奈川県	293	82	0.168%
9 ▶ 千葉県	151	37	0.032%	9 ▶ 広島県	167	39	0.072%	9 ▶ 静岡県	276	60	0.091%
10 ▶ 神奈川県	148	39	0.021%	10 ▶ 長野県	165	33	0.071%	10 ▶ 広島県	275	59	0.119%

(\*) 児童・生徒数に対する負傷人数の割合

# トラストフォール(人間おこし)とは?



まず、ひとりの生徒を支えて上に立たせる(1)。仲間をトラスト(信頼)して思い切りフォール(倒れる、2)。下の生徒たちが勢いよく投げ上げるようにして再び起こす(3)。失敗すれば落下して頭を打ちかねない

また、兵庫県の中でも西宮市には、組体操を各学校が競って行なう特別な事情があった。同市教育委員会体育担当者が説明する。

「西宮市では、11月頃に市立のすべての中学生と小学校6年生がそれぞれ甲子園球場に集まって『連合体育大会』が

開催されます。最大の見どころは、やはり中学3年生の組体操。1981年に『5段タワー』をやった記録が残っており、少なくとも40年近く続いていることになりました。

市内の各中学は、あらかじめ連合体育大会でやる組体操の技を決め、同じ技を自校の運動会ときからずっと練習します。そして、最後に甲子園球場でそろって披露する。市民が集まって学生時代の思い出を振り返るときには、よくこの話題になります」

「確実に安全な状態でできないと判断される場合は実施を見合わせる」ように通達。これを受け、神戸市教育委員会は16年度に「立体ピラミッド(土台が三角形や四角形のピラミッド。100ページの写真)は禁止、平面ピラミッド(土台が横一列)は4段まで、タワー(下の生徒の肩の上に立つ変形ピラミッドで、より高さが出る)は3段まで」というガイドラインを通知した。

聖地・甲子園での集大成イベント。さぞかし盛り上がるだろうことは想像に難くない。

## 校庭中が感動の嵐に包まれる

ただし、近年は全国的に組体操に対する風当たりが強い。各地で重大な事故が相次ぎ、2016年3月にスポーツ庁が

「子供の体力は年々落ちていく。ピラミッドでもすぐにベシヤツとなってしまう。補助倒立なんか、昔は最初からできて当然の技でした。最近ではそれができません」

西宮市の連合体育大会でも、今年からタワーの高さを2段にすることを決めたという。

は口が重く、なかなか本音を聞くことはできなかったが、かつて組体操を推進した元教員らの話を紹介しよう。

「挑戦する気持ちを持ってもらいたい。みんなで力を合わせて完成したときの達成感を

子供たちに体験させてあげたい。そんな気持ちでした」西宮市の元体育教師

「保護者のほうが組体操への期待が大きいケースもある。組体操をやめようとするとなんでやってくれへんのや」

と苦情がありました。ダンスなどではなかなか満足されない。ねんざや骨折は付き物で、教師も保護者も『しょうがない』という感覚でした(尼崎市の元体育教師)

「生徒数も少ない田舎では、運動会を盛り上げるには地域の人にも協力してもらわないといけない。町の祭りみたいなものです。そして、見に来た人が一番感動するのが、やっぱり組体操なんです。

「子供の体力は年々落ちていく。ピラミッドでもすぐにベシヤツとなってしまう。補助倒立なんか、昔は最初からできて当然の技でした。最近ではそれができません」

西宮市の元体育教師

実際、スポーツ庁が発表している「全国体力・運動能力調査結果」によれば、兵庫県の児童の体力は全国でもかなり下のほうだ。

も2段まで」と通達。これを受け、ずっと甲子園球場での5段タワーを売りにしてきた西宮市の連合体育大会でも、今年からタワーの高さを2段にすることを決めたという。

神戸市長が指摘した負傷者数にしても、神戸市教育委員会はその内訳をこう説明する。

「今年10月7日時点で、組体操でのケガなどにより医療関係を受診した総数は51人です。そのうち骨折は6人です

「高さに規制の入った技に代わって、最近では『トラストフォール』、別名『人間おこし』と呼ばれる技がじわじわと増えていきます」

トラストフォールとは、文字どおり「相手を信頼して倒れる」技。土台の上に立った生徒が勢いよく倒れ、それを下の生徒たちが支えた後、再び投げ上げるように起こす(右上のイラスト参照)。

「後ろだけでなく前にも倒れたり、手をつないで何人もが一斉に倒れたり、ウエーブをしたりといったバリエーションもあります。まだなんの規制もありませんが、もし倒れるのを受け損なったら頭を強く打し、ヘタをすれば死んでしまう危険な技です。まう危険な技です。最近では学校側も、批判を恐れてホームページなどに組体操の内容をあまりアップしないようになりました。保護者に対してもトラストフォールなどの動画をネットにアップしないよう通達しているケースもあり、外部に漏れないようにしているんです。

例えば、ピラミッドで一番下の子は、上に次々と人が乗ると腕が震え、表情も苦しうに変わる。歯を食いしばる姿に思わず『頑張れ!』となる。なんとか耐えて成功すれば拍手と大声援。『よう我慢した!』『よう頑張った!』と、校庭中が感動の嵐に包まれる。そして、『来年も見に来るから頑張れ!』となるんです(農業地帯の小学校の元校長)

しかし、「体力がないからケガするのは仕方ない」という戦前の軍隊みたいな話、今の学校教育で通用するはずもない。負傷者の多さに批判が殺到し、今年1月には兵庫県教育委員会が「ピラミッドは小学校で3段、中学で4段まで。タワーは小中と

「今年10月7日時点で、組体操でのケガなどにより医療関係を受診した総数は51人です。そのうち骨折は6人です」

つまり、高さを規制したタ

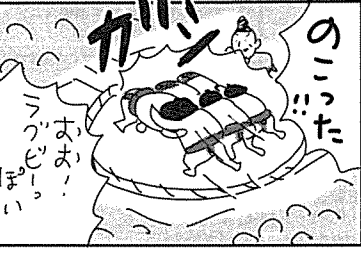
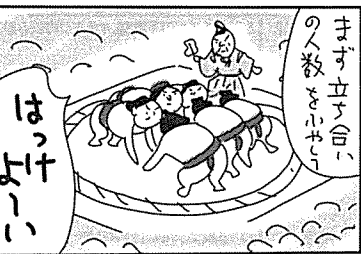
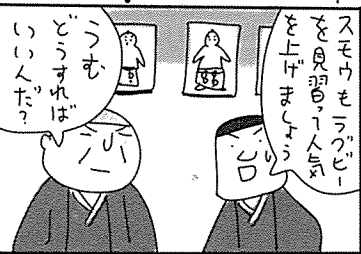
「高さに規制の入った技に代わって、最近では『トラストフォール』、別名『人間おこし』と呼ばれる技がじわじわと増えていきます」

トラストフォールとは、文字どおり「相手を信頼して倒れる」技。土台の上に立った生徒が勢いよく倒れ、それを下の生徒たちが支えた後、再び投げ上げるように起こす(右上のイラスト参照)。

「後ろだけでなく前にも倒れたり、手をつないで何人もが一斉に倒れたり、ウエーブをしたりといったバリエーションもあります。まだなんの規制もありませんが、もし倒れるのを受け損なったら頭を強く打し、ヘタをすれば死んでしまう危険な技です。まう危険な技です。最近では学校側も、批判を恐れてホームページなどに組体操の内容をあまりアップしないようになりました。保護者に対してもトラストフォールなどの動画をネットにアップしないよう通達しているケースもあり、外部に漏れないようにしているんです。

「組体操王国」の構成員は学校や教育関係者だけでなく、保護者を含めた地域そのものでもあるのだ。また、こんな意見

# 時事おやじ



「組体操王国」の構成員は学校や教育関係者だけでなく、保護者を含めた地域そのものでもあるのだ。また、こんな意見

「組体操王国」の構成員は学校や教育関係者だけでなく、保護者を含めた地域そのものでもあるのだ。また、こんな意見

## 火の粉舞い散る衝撃!! 愛知県のもっと危険な出し物「トーチトワリング」とは?

見ようによっては、組体操よりも危険な学校行事が愛知県にある。県内の小中学校を中心に、林間学校や野外学習の際に行なわれている「トーチトワリング」(別名「火の舞」)だ。

有志の生徒たちが先端に火がついた棒を両手に持ち、それを振り回す(!)団体パフォーマンスで、学校側はその意義を「火の美しさとともに危険さを体感する」などと説明しているが……。

この珍妙な風習の発祥は、1960年代、愛知県蒲郡市のあるキャンプ場。手筒花火の着火にインスピレーションを得て、トーチをXの字に振り回しながらキャンプファイヤーに点火したことがきっかけだ。これに新体操のこん棒

やポリネシアンファイヤーダンスの要素を取り入れて学校行事として形を整え、70年代後半から多くの学校に広まり始めたという。

愛知県民に話を聞くと、「放課後に練習し、本番が終われば有志間で味わう達成感もひとしお。林間学習のいい思い出だった」といった前向きな思いを語る声も少なくない。しかし、一方で同県出身の本誌編集Mはこう言う。

「運動神経がいい『選ばれた人』のためのイベントです。自分は、本番当日は隅に座って、美しく燃える炎と感動を分かち合うイケてる同級生を眺めてました」

ともあれ、失敗すればどんな事故が起きるかはまさしく

「火を見るより明らか」。今年7月には名古屋市守山区の中学校で、男子生徒が練習中に右腕手首から肘にかけて重いやけどを負った。

これを受け、同市教育委員会は火を使ったトーチトワリングを本年度は行なわないよう市立の小中高校に通知。安全対策として火を使わないケミカルライトを使ったトーチの普及も進んでいるが、来年度以降の対応については検討中だという。

